

(唐)釋法藏撰 (唐)釋宗密注

- 江戸期黄檗山寶藏院刊本
  - 二册
  - 線裝本 二十八・〇×二十・〇糎
  - 四周雙邊 無界 每半葉十行 每行二十字 白口 魚尾無
- 匡郭内二十三・五×十四・七糎

子部・第十三釋家類に屬する。

圖版四・五の二点は、黄檗版大藏經である。黄檗版大藏經は明の万曆版正藏を底本として覆刻され、一六五〇余部、六九五〇余巻ともいわれている。

黄檗僧鐵眼道光(一六三〇—一八二〇)により行われたこの刻藏事業は、我が國における大藏經刊行の歴史において多大な意義をもつものである。鐵眼は、大藏經を出版するために全国各地で行脚と講經・說法による募緣活動を行い、大名・豪商、あるいは民衆に至る多くの人々からの資金的協力によりこれらの出版を可能にした。また、大量に印刷流布されたため、廣般な人々に閱覽享受を可能にし、これにより佛教研究の基盤が形成されたといえよう。

卷末の刊記によって、鐵眼の刻藏事業を支えた寄進者をみることができる。

# 藏書印譜

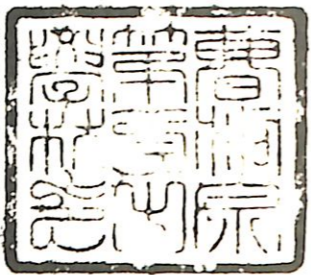
藏書印譜凡例

- 一 本目錄の藏書印を可能な範囲にて採取。
- 一 印影は原寸。
- 一 藏書者紹介（名前・生没年・略歴等）
- 一 掲載順序は次のとおり。

- 1 宮城縣曹洞宗中學林〔宮城縣曹洞宗中學林藏書印〕
- 2 曹洞宗第二中學林〔曹洞宗第貳中學林印〕
- 3 梅檀學園圖書館普門寺文庫
- 4 棟方唯一〔唯一藏書〕
- 5 陽雲寺〔陽雲寺藏書・清野藏書〕
- 6 朝川善庵〔善庵〕
- 7 大野屋惣八
- 8 島地大等
- 9 島田蕃根
- 10 増上寺
- 11 東福寺善慧軒〔善慧軒〕
- 12 内藤耻叟
- 13 長澤鐵隆
- 14 三井高堅



宮城縣曹洞宗  
中學林藏書印



曹洞宗  
第貳中  
學林印

1 宮城縣曹洞宗中學林〔宮城縣曹洞宗中學林藏書印〕  
曹洞宗第二中學林〔曹洞宗第貳中學林印〕  
本学の前身となる、曹洞宗中學林（明治二十三年設置）と、曹洞宗第二中學林（明治三十五年前述を廃止し、新たに発足）の藏書印。



梅檀學園圖書館  
普門寺文庫

2 梅檀學園圖書館普門寺文庫  
曹洞宗第二中學林五代林長金山活牛の藏書の寄贈・寄付によりできた文庫と推測される。金山林長は明治四年（一八七一）、山形県米沢市生まれ。大正九年林長着任。同十年退任。昭和三十七年（一九六二）九十二歳をもって遷化される。



唯式



唯一藏書

3 棟方唯一(唯一藏書)

明治四一昭和十八年(一八七一一一九四三)  
青森県弘前市生まれ。  
大川寺(秋田県大曲市)第三十一世。大正十三年七月、曹洞宗第二中学林第七代林長に着任。昭和六年十一月退任。



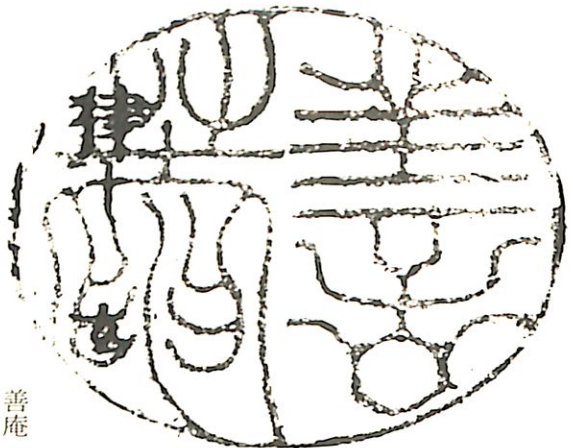
陽雲寺藏書印



清野藏書

4 陽雲寺(陽雲寺藏書・清野藏書)

陽雲寺は天正五年(一五七七)に開山。  
現在は単立寺院(仙台市宮城野区原町)。昭和二十三年、第二十二世清野学道代に曹洞宗から単立寺院となる。



善庵

5 朝川善庵(善庵)

天明一—嘉永二年(一七八一—一八四九)  
江戸生まれ。名は鼎。片山兼山の子。  
江戸後期の漢学者。山本北山の門で折衷学を学び、その後京都・大坂や九州に遊学し、のちに肥前平戸藩儒となる。著書に、「論語集説」「大  
学原本積義」などがある。



長嶋町五丁目  
大野屋惣八

6 大野屋惣八(大野屋惣八)

名古屋市長島町にあった貸本屋。明和四年(一七六七)創業、日本一の貸本屋と言われた。創業から一五〇年間続き、明治三十二年廃業。



島地大等藏

7 島地大等

明治八―昭和二年（一八七五―一九二七）

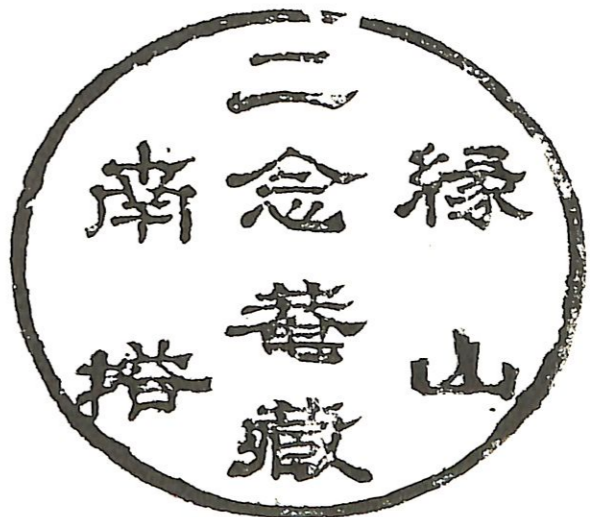
新潟県三郷（現在、上越市）生まれ。

明治・大正期の浄土真宗本願寺派の学僧。一九

〇二年に島地黙雷（明治期の浄土真宗本願寺派

の僧）の養子となる。

東京帝国大学等で講師を務めた。



9 増上寺

浄土宗大本山。東京都港区芝公園に所在。三縁

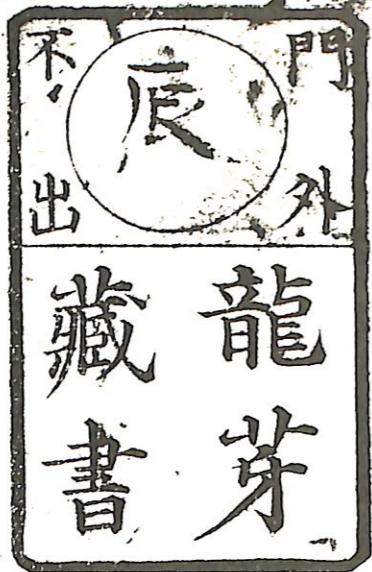
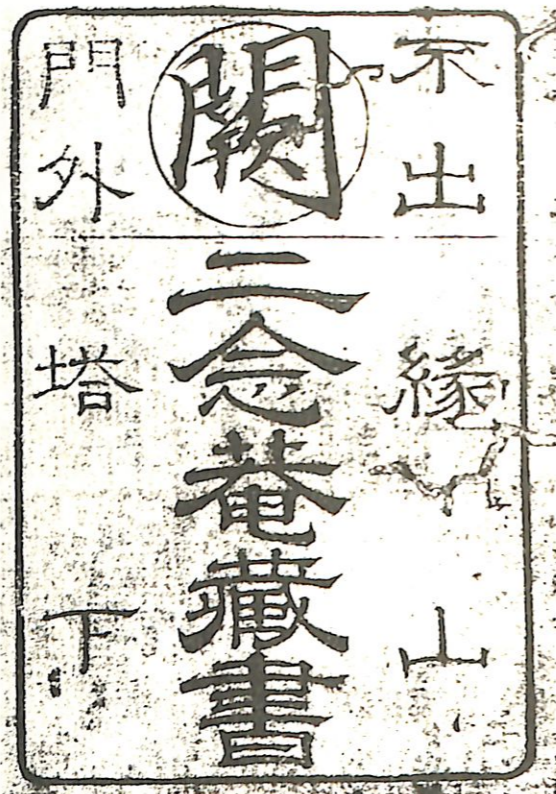
山広度院。

浄土宗壇徒だった徳川家康と師檀関係を結び、

將軍の菩提寺として当時急速に興隆する。多く

の書籍・文書類を所蔵。

9 増上寺



此書上下二冊是島田蕃根老人手澤本而  
 冠頭談話為老人之手跡  
 舊海上人是坊城上人之師住于赤川  
 傳道院本  
 梶丘常人

8 島田蕃根

文政十一年明治四十年（一八二七—一九〇七）

山口県徳山生まれ。

在家の仏教学者・漢学者であり、愛書家。佛・儒を修めて、藩及び明治政府に出仕した。明治十四年に大

藏経の縮刷版の刊行を計画し、同十八年『大日本校訂大藏経』四十一帙四十九冊を出版完了した。



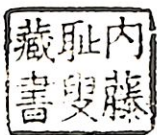
善慧軒

10 東福寺善慧軒〔善慧軒〕

臨濟宗東福寺派本山。京都市東山区本町に所在。

開山の円爾弁円（聖一國師）は、入宋の折に仏書のほか多数の外典漢籍を将来し、学事興隆の基礎を築いた。

多くの蔵書があり、貴重典籍も伝在する。



内藤耻叟藏書

11 内藤耻叟

文政十一年明治三十六年（一八二七—一九〇三）常陸生まれ。

幕末・明治期の儒学者、歴史学者。弘道館教授、東京帝国大学教授。著者に「安政紀事」「徳川十五代史」などがある。



長澤鐵隆

12

長澤鐵隆

弘化四―大正十年（一八四七―一九二二）

宮城県仙台市生まれ。

仙台原町南ノ目（現在、仙台市宮城野区原町）曹

洞宗江国山陽雲寺の第二〇世。



13

三井高堅

三井家は三井高利（一六二二―一九四）を家祖とし、江戸時代から現代に至る豪商・財閥。高堅は新町家九代。

高堅は大変な蔵書家であり、三井記念美術館所蔵の聴水閣コレクションは高堅が収集した中国古拓本として有名。

## 後 跋

足かけ七年にも及んだ和漢書整理もとうとう終わりを迎えた。目録が完成したという安堵感と同時に、この作業に携われた喜びがこみ上げてくる。そして、この作業を支えてくださった多くの方々に、今はただただ感謝の気持ちで一杯であるが、この機に編集の経緯や主旨等について、若干述べておきたい。

当館所蔵の和漢書の入手経路は記録がないため明確ではないが、『梅檀学園七百年史』を参考に考察すると次のようになる。明治三十五年東二番丁に宗門人育成のために曹洞宗第二中学林が設立され、その後大正七年四月に中学林内の文芸部の付帯事業として図書室が設置された。その際に、各先生方や生徒が図書を寄贈したという記述があるので、現在所蔵の和漢書の一部はこのとき収集されたものと思われる。しかし、当時二度の火災があり、大正十三年五月の二度目の火災時に「図書教具が一切烏有に帰した」と記録にあるので、これ以前に寄贈された資料は殆ど焼失したようである。資料の蔵書印をみると、現在数点ではあるが「曹洞宗第二中学林」のものが残存するので、このときに無事であった数少ない資料か、あるいはその後大正十五年に梅檀中学校と改名される間に寄贈された資料だと推測できる。その他の大半の資料は、梅檀学園で教鞭をとられた先生方、また曹洞宗関係寺院から寄贈されたものと、昭和三十三年に東北福祉短期大学が設置される際に収集されたものと思われる。

和漢書の整理作業は、平成十二年九月から始まったが当初は目録を作るなどという大掛かりな構想はなく、本学の講師でもある萱場健之氏の指導による「和漢書に関する勉強会」として館内で開始されたのが始まりである。

萱場氏は『宮城縣図書館漢籍分類目録』を始め宮城県内の和漢書整理を多く手がけている方であり、平成